

# 月島路地マップ



# 月島路地マップ



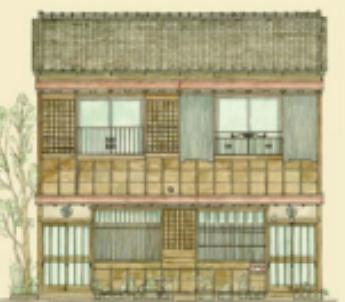
## 路地と長屋

月島の路地は、狭い鳥の巣の中に住宅が詰め込まれるように建っているため1m程の幅しかない。元々島は、住吉神社を除いて計35棟に分割して島地にされた。それが人口増加と共に密集して住宅が建てられるようになり、ついでに路地がつくらていった。奥行き20間程度の街区の長手方向に、4~5層を準拠として路地と住宅がつくられている。路地からの各住宅への入口は両側にあり、建物の北側にはなはるべく直をつくらないといふ慣習がある。

月島は、開港大蔵官の時も便利しなかった。隅田川を越えて島へできた大木の船を、住民が結束して火消しと伝えられている。路地は非常に狭いので、今でも「バケツリレー」での消防訓練が行われている。

月島の路地は、月島の路地以上に規則的につくられている。近代都市計画でつくられた島であるが、その街割りは江戸期に見られた「一町堀廻」(約120m四方)を基本単位として街割りされた。道路部分を抜くと、どの街区の大きさは60間となる。更に正方形の街区を二つに分割する3段道路がつくられた。この街区の大きさは、工場や倉庫を建設するにはちょうど良かったが、宅地には大きすぎた。そこで街路の長辺方向を6つに分割し、登録状になった敷地割りの枠を路地に通し、両側に長屋が建設されていった。路地の幅は1間から9尺で、これは当時の法律によるものもある。路地は50m程の長さがあり、その1本あたり24種類の長屋が立ち並んでいる。

長屋の標準的な間口は、1戸戸あたり2間で、奥行きは3.5間程度である。2軒から4軒長屋が多くつくられた。1戸戸あたりの床面積は44坪程と狭いが、1階と2階を別に貯販することや、更に2階を二つに分割して貯販することが多かった。



月島の長屋

- 一、路地は私有地という
- 二、静かに通行しましよう。
- 三、住人の方や通行人と会ったときは、
- 四、話しかけられたときは、笑顔で対応しましよう。
- 五、通行人や自転車には、道をゆすりましよう。



## 歴史 一覧

- 開港前  
カワシマヤ  
■もんじゅう  
いろは  
大江戸出版  
おひめ  
おしお  
えみる葉  
ことぶきや  
宝島  
つきしまじや  
能書  
パンダ  
よだら葉  
むつみ  
好美家



## 月島西仲共栄会商店街振興組合

2011年10月9日(日) 12:00～17:00 2011年10月16日(日) 13:00～17:00

「よどりみどり市」 「CHOO-THE-UNIERTY」

■西仲共栄会  
ブルメコーナー

■もんじゅう  
いろは  
おひめ  
下町のこども放課後 球

〒104-0052 東京都中央区月島3-15-12  
TEL 03-3531-0076 FAX 03-3531-0080  
URL: <http://www.tsukishima.com/>

## 月島もんじゅう組合協同組合

2011年10月1日(土)～9日(日)

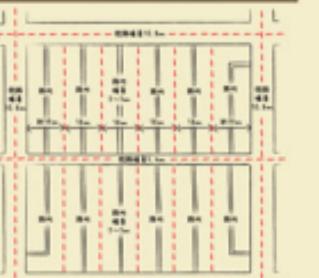
もんじゅりありがとうフェア

「もんじゅうを食べて海外旅行」

〒104-0052 東京都中央区月島3-10-103

TEL 03-3532-1990 FAX 03-3532-2990

URL: <http://www.monja.gr.jp/>



路地の構成

## 歴史 一覧

### 石川島

江戸幕府の船頭部であった石川八左衛門が次第に「羅島」と呼ばれていた無人島を幕府から羅島地として与えられた。現在の大川端駅バージェンの三井不動産によるタワーマンション群が林立するあたりである。石川八左衛門工次は絶妙の持主であつた。それにまつわる愛深いエピソードが「石川島賛美歌」に展示されている。

日本最初の鉄筋骨組のあたりが、當時の幕府御用基地だったため、この石川島は羅島地ではあるが、幕府御用の新規基地と位置づけられた。現在の駅前に「羅岸島水位観測所」が設置されたのは、江戸時代から、そのあたりが江戸港の中心だったからである。島にはいくつの堀があつており、それらは船を泊めておく「船入宿」だと考えられる。「東平洋開拓」で有名な長谷川義重の著書によって1700年につくられたとされる老覚場は、石川島の南にあった船頭を造成してつくられた。現在の御公園の池や道具があるあたりに移転する。

### 奉島

1630年、徳川家康(徳川の大蔵)仙台を中心とした諸侯らが、石川島の南の千利舟前方面を幕府からもらひ受けた。漁師たちも島の漁の権利に基盤体験したことなく島を造ったと言われおり、1644年に造成が完了した。

島は、大小二つの部分がつくられ、その間が船入宿である。後もそれは船入宿として使われており、漁師の面影を残している。

現在はカミソリ植物があるので分かりづらいが、江戸の町を正面として町が構成されている。月島町の北側にある住吉神社と江戸の町、江戸城があった方向、漁師町の方向を向いている。町の字型に掘割りされており、住吉神社側の北側が「東町」で、大川端通りの方が敷地割りが大きい。祭りの時の音の源の近くで、江戸の町から見て島側に向かって見えるよう逆配置されている。

### 幸島

東京の近代化沿革に最初につくられた埋立地である。1887年に着工された堤は、大規模に縮小された東京港築港計画の一環であり、國田川の堆積によって築かれていた。堤の完了は1892年と言われており、その後に東京市區改正委員会で月島の街割計画が審議されていることから、我が国初の近代都市計画である市區改正計画によって誕生したことになる。

第一次世界大戦が地が迫った頃まで、多くの工場や倉庫が建設された。そこで働く労働者のための住居が大量に必要になりました。現在も残っている路地と長屋群がつくられていった。西仲通り商店街は、石川島にあった造船所と月島3丁目にあった石井鐵工所の形に形成されたものである。

1896年に埋立地が完了した新都心の東側は、かつて風光明媚なことから遊覧地であった。